



繰り返すことの楽しさと尊さ ～ いつでも何度でもやってみよう

園長 和島 千佳子

4歳児もも組は糸引きゴマ、5歳児ゆり組は投げゴマで遊んでいます。冬が始まったころ、初めて触れた時には糸の巻き方を知るところから始まった幼児がほとんどでした。はじめはうまくいなくて機嫌が悪くなる様子や、すぐにできそうにないと思うからか「やらない」という姿もありました。しかし、友達や先生が遊ぶのを見ているうちに、やってみようと思い、取り組むようになりました。

コツコツと何度も何度も自分なりに挑戦する子どももいれば、先生にひもを巻いてもらって回すことができる、自分でも巻いて回そうとするようになる子どももいます。回せるようになると、今度はいろいろな回し方をしてみたいと思うようです。友達と掛け声を掛けて一緒に回し、どのコマが一番長く回っているか競ったり、色を塗った紙をのせて回し、色の変化を楽しんだり、様々な遊び方を考え出しています。

子どもたちは、繰り返しコマで遊びながら、コマという道具を扱う自分の指先や体の使い方を意識して、コントロールしています。また、「やってみたい」「うまくできないと嫌だな」「もっとこうなりたい」など様々な感情に向き合っています。繰り返し取り組むことの楽しさと意味を感じ、すぐにうまくいなくても大丈夫、自分次第でいつでも何度でも取り組み、やり直せることを学んでいるな、と感じます。そうしながら、自分で次のめあてを見付けていきます。これはまさに、幼児期の後半に育ってほしいと願う姿で、自分への信頼感を育てている過程です。



コマは一人でもできる遊びですが、傍らに一緒に遊ぶ友達や先生がいることで、刺激や励ましを受け、より意欲が増しています。そしてその経験は、コマにとどまらず、生きていくうえでの基盤となるものです。昔から伝わる遊びには、子どもたちを健やかに育てるものが込められているのだな、と感じます。

もうすぐ進級・就学を迎える時期となりました。子どもたちの成長を心からうれしく思う反面、お別れのさみしさも感じるこの頃ですが、次の扉をひらいていく一人一人の子どもたちに、エールを送ります。「これまでも、今このときも、そしてこれからも、きっと大丈夫、絶対大丈夫。」

青柳幼稚園を支えてくださっている、すべての皆様に深く感謝いたします。そしてこれからも、どうぞよろしくお願いいたします。